

ファンボロー航空ショーに見る米露対立

漢和防務評論 20161106 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

7月に英国で開催された恒例のファンボロー航空ショーは、ロシアの参加態様が制約を受け、KDRによると低調であったとのことでした。

KDRは、航空ショーに政治的対立をあからさまに持ち込むべきでない、と主張しています。

しかしロシアにとっては対外宣伝のチャンスでもあり、中国との旅客機の共同開発等を宣伝しています。

KDR ロンドン平可夫特電：

今回のファンボロー航空ショーは、ロシアと西側国家との対立が如実に表れ、極めて低調であった。参加したロシアは、民用航空機の模型の展示のみが許されていた。ブースには戦闘機の写真は展示が許可されず、ロシア聯合航空機集団公司 (UAC) が開発中の戦闘機 T-50 の写真を展示したところ、主催者側から直ちに警告を受けた。

したがって今回のファンボロー航空ショーは、ロシア側は如何なる軍用機模型も展示することができなかった。このような航空ショーは初めてである。

スホーイ航空機会社の消息筋は KDR に対し：我々は、ブース内で軍用機に関することを協議したり回答したりすることを禁止された、と述べた。

KDR 記者は、記者会見の場で最初に UAC の YURY SLYUSAR 総裁に 2 つの質問をした。一つは、①中露のワイドボディ機共同開発の問題、二つ目は、②露印の T-50 戦闘機共同開発問題であった。①の質問に YURY は次のように回答した：中露のワイドボディ機共同開発は、現有のロシア旅客機を基礎に開発したものではなく、全く新しい設計機である。初飛行まで 8 乃至 9 年かかる可能性があり、最終組み立ては、上海で行う可能性がある。これは 290 席の旅客機であり、中露双方の出資比率は 50 対 50 である。エンジンについては、ロシア製エンジンを使用する計画であるが、ロールスロイスのエンジンを選択することもできる。協議書にはすでに署名した。我々は、総投資額が 20 億ドルになると推算している。細部が確定するのに 2 乃至 3 年にかかる。このほか我々は、中国に担当事務所を設立し、中国の顧客にスホーイ社設計のスーパージェット旅客機を推奨している。改良型は 130 席になるであろう、と述べた。

KDR は次のように確信した：ロシアが中国に SU-35 を積極的に推奨するのは、ほかにも目的がある。それは旅客機も一緒に売り込むためである。ロシアは、特にスホーイ社設計の旅客機は中国市場で必ず売れると信じている。この考え方は、MIKHAIL POGOSYAN 前総裁の時代から変化していない。

現在、中露は、ワイドボディ機の共同開発について協議している段階であり、現段階では貨物機、輸送機に改装する計画はない。この計画が一旦実現すると、中国の大型航空機或いは爆撃機の研究に多いに助けになるはずである。

②の質問に対し YURI は：我々は、討論し回答する機会が他にもある、と述べた。

スホーイ航空機会社の官員は、本誌が質問したロシア軍用機と他国との協力問題に回答するため、KDR 記者と一緒にブースから出ざるを得なかった。長年国際安全、戦略、軍事問題を研究してきた専門記者兼学者として、このようなやり方は常識であった。スホーイ社の官員は、主催者側の規則を遵守した。

KDR がどうしても理解できないことは：米国を主とする西側は、ロシアとの政治的関係をなぜこのように頑なに弄ぼうとするのだろうか？

KDR：かつて私は次のように報道した。SU-35 を中国に輸出させた最大の功績者は誰か？それはワシントンであり、東京である。私ははっきり覚えているが、貴方（UAC 官員）、M.POGOSYAN（前 UAC 総裁）、国家武器輸出入総公司の×××責任者を含め、SU-35 の対中輸出を積極支持する人はいない。プーチン大統領一人だけではないのか？

UAC 官員：確かにそうだ。現在我々は、時間通りに SU-35 を完成させ、中国にそれを提供する義務を履行するだけだ。如何なる問題も起きない。提供を遅らせることもできない。

SU-35 を契約通りに中国に提供するために、ロシアは最大の努力をしている。モスクワ航空工業界の消息筋は、KDR に対し：ウクライナ及び欧州の対露武器禁輸措置のため、SU-35 を含めロシアの戦闘機生産の一部に部品不足の問題が出現している、と述べた。しかし影響は小さいと KDR は見ている。

以上